

① 家政学部家政経済学科 教授 伊ヶ崎 大理

研修期間：2019年4月1日～2020年3月19日

研修先：スペイン（マドリード・コンプルテンセ大学）

指導担当者：エミリオ・セルダ（経済分析学部 教授）

研修課題：イノベーション、人口動態、および気候変動—動学的な多地域モデルを用いた分析—

報告内容

地域間の出生率の相違が存在するモデルにおいて、出生率の急激な変化が長期的な経済の動学的挙動に及ぼす影響、気候変動などがもたらす自然災害の増加やその影響を緩和するための地方公共団体の復興政策が地域の企業活動や人口動態に及ぼす影響などに考察できるモデルを構築した。さらに、環境問題を含むようにスキル偏向的な技術進歩モデルを拡張し、南北協調がどのように各国の厚生を変化させるかを明らかにし、パレート改善が可能であることや各国の交渉力と協調の程度も明らかにした。研究成果については2報の刊行（ともにSpringer社から出版予定の本に書籍所収論文として掲載される）が決定しており、さらに投稿中の論文もある。

② 文学部英文学科 准教授 鈴木 喜和

研修期間：2019年4月1日～2020年3月31日（変更なし）

研修先：イギリス（オックスフォード大学キャンピオン・ホール）

指導担当者：ニコラス・キング（キャンピオン・ホール フェロー）

研修課題：イギリス・ロマン派詩人と叙事詩

報告内容

本研修において申請者は、イギリス・ロマン派の詩人ジョン・キーツの叙事詩創作を同時代の政治的文脈の中で理解する試みの一環として、これまで注目されてこなかった群小の詩人や宗教家の言説をおもにオックスフォード大学図書館の資料に基づいて調査した。

また、ロンドンで開催されたキーツ・コンファレンスにて研究発表を行い、同分野の研究者や院生らと意見交換を行った。その他に、キーツ研究のみならず、広くロマン派文学の研究に不可欠な文化的知見を深めるために、イングランド南部を中心とした自然環境、とくに動植物の観察やジョージ王朝時代および摂政時代の美術作品、建築、庭園等の調査を行った。

③ 文学部史学科 教授 加藤 玄

研修期間：2019年4月1日～2020年3月18日

研修先：フランス（ボルドー・モンテーニュ大学）

指導担当者：フレデリック・ブトゥル（ボルドー大学附属古代中世研究所（オゾニウス）教授）

研修課題：中世南西フランスにおける領域的性格の形成と変容に関する総合的研究

報告内容

本研修では、受入教員をボルドー・モンテーニュ大学副学長フレデリック・ブトゥル教授、受入研究機関を同大学古代中世研究所とし、フランス南西部における「領域」の性格を歴史的なプロセスに位置付けることを試みた。県文書館・大学各図書館の所蔵史料・文献調査に基づき、以下の3テーマの研究を進め、雑誌論文や共編著として公表した（予定も含む）。①サン・テミリオン市を対象としたケース・スタディー②君主の大陸巡幸に伴う「領域」の性格の変容③百年戦争期を中心とした中世英仏関係史。なお、当初の研修期間は2019年4月1日から2020年3月31日を予定していたが、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大を受け、終了日を3月18日に早めた。

④ 理学部数物科学科 准教授 藤田 玄

研修期間： (1) 2019年4月1日～2019年8月31日  
(2) 2019年9月1日～2020年3月24日

研修先： (1) カナダ (マックマスター大学)  
(2) カナダ (トロント大学)

指導担当者： (1) メグミ・ハラダ (数理統計科 教授)  
(2) リサ・ジェフリー (数学科 教授)

研修課題： Developments of index theory in symplectic geometry and related topics

報告内容

カナダのMcMaster大学とToronto大学に滞在し海外研修を行った。受け入れ教員のM.Harada氏とL.Jeffrey氏は研修テーマの舞台となるsymplectic幾何学を牽引する女性数学者である。Toronto大学で不定期に開催されるsymplectic seminarに出席し積極的に参加者らと交流を深めた。特にToronto大学のY.Karshon氏、E.Meinrenken氏、X.Tang氏らとは様々な議論を交わすことができ非常に有益な滞在となった。研修においては非コンパクトなsymplectic多様体上の群作用に関する同変指数の問題に取り組み、以前得た結果をある意味でより簡潔にかつ一般化する定式化を得た。以上の結果を論文としてまとめ、12月に開催されたCanadian Mathematical Society winter meetingおよび2月のsymplectic seminarにて発表した。また、滞在中に2018年から取り組んでいたDelzant多面体とsymplectic toric多様体の関係の距離空間的なアプローチの共著を完成させた。